

鷲ノ木遺跡があり、それぞれ個性と共通性を有する。これらは東北地方北部から津軽海峡を越えた北海道南部までの範囲に分布する。かつて、富樫泰時はこの地域を「円筒土器文化圏」と命名し、縄文時代を通して文化圏が綿々と保たれることを指摘した(富樫1974)。小林達雄によると土器様式文化圏Ⅱ-2(小林1984)であり、近年は「津軽海峡文化圏」(小林2010)とも呼ばれている。

東北地方北部以外でも環状列石は存在する。例えば関東地方北部や中部地方にも発見されているが、東北地方北部のように完全な円弧を呈するものは極めて少なく、弧状やそれにも満たない列状のものなど、円環を意識しているが完成には遠く及ばないものが多く、礫を運びこむことは容易ではないことを物語っている。そのような中、東北北部の環状列石をほぼ完全な円環に仕上げている。これは当時の社会における文化力と言えるのではないか。

最後に伊勢堂岱遺跡は道路計画を中止して保存した経緯がある。現在でも遺跡の東西にはほぼ完成していた橋脚が、その英断を後世に伝えるべくそのまま保存されている。このような遺跡を市民の宝としてこれからも利活用を一層進めたい。

<引用参考文献一覧>

- 青森市教委 2007『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』青森市埋蔵文化財調査報告書第85集
- 秋田県教委 1981『国道103号線バイパス工事関係遺跡発掘調査報告』秋田県文化財調査報告書第84集
- 秋田県教委 1981『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集
- 秋田県教委 1990『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ-高屋館跡-』秋田県文化財調査報告書第198集
- 秋田県教委 1994『白坂遺跡 県営圃場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査』秋田県文化財調査報告書第244集
- 秋田県教育委員会
- 秋田県教委 1999『伊勢堂岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第293集 秋田県教育委員会
- 秋田県教委 2005『日廻岱B遺跡森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XV』秋田県文化財調査報告書第396集 秋田県教育委員会
- 秋田県教委 2007『芹川館跡 一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XV』秋田県文化財調査報告書第405集
- 秋元信夫 1999「遺構研究 環状列石」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 秋元信夫 2005『大湯環状列石』新泉社
- 五十嵐一治 2000 「環状列石構築直前の土壙墓と祭祀関連遺物-伊勢堂岱遺跡の事例から-」『青森県考古学』12
- 石井 寛 1995「縄文時代掘立柱建物址に関する諸議論」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第6集
- 石井 寛 1998「縄文集落と掘立柱建物跡」『先史日本の住居とその周辺』同成社
- 榎本剛治 2004「群集する環状列石」『月刊文化財』485 第一法規
- 榎本剛治 2005 「秋田県における湯舟沢A式土器の検討」『北奥の考古学』葛西勲先生還暦記念論集刊行会
- 榎本剛治 2007「環状列石における第二の道具基礎的研究」『土偶研究会』4 土偶研究会
- 榎本剛治 2008「十腰内I式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 榎本剛治 2008「米代川流域における集落遺跡と環状列石」『考古学ジャーナル』584ニューサイエンス社

- 榎本剛治 2009「米代川流域における環状列石の祭祀・儀礼」『環状列石をめぐるマツリと景観』國學院大學伝統文化リサーチセンター
- 榎本剛治 2010「縄文時代後期前葉における土偶の分割について」『土偶研究の現状と課題』栃木県立博物館
- 榎本剛治 2010「伊勢堂岱遺跡」『世界遺産縄文遺跡』同成社
- 榎本剛治 2010「環状列石と掘立柱建物跡」『異貌』29 共同体研究会
- 岡村道雄 1997「縄文時代の環濠、区画溝、柵列」『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店
- 小畑 巖 1993「高屋館跡の環状列石」『よねしろ考古』8 よねしろ考古学研究会
- 葛西 勳 2006『続・再葬土器棺墓の研究 切断壺形土器と子供の再葬を考える』
- 鹿角市教委 2007『特別史跡大湯環状列石(Ⅰ)』鹿角市文化財調査資料77
- 鹿角市教委 2010『特別史跡大湯環状列石(Ⅱ)』鹿角市文化財調査資料98
- 北秋田市教委 2005『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅴ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 北秋田市教委 2006『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅵ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第6集
- 北秋田市教委 2007『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅶ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第8集
- 北秋田市教委 2008『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅷ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第12集
- 小林達雄 1984「縄文時代領域論」『坂本太郎博士頌寿記念 日本史学論集上巻』
- 小林達雄 2010 「縄文の世界」『世界遺産縄文遺跡』同成社
- 小林 克 1997「縄文のムラ・墓と祈り」『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店
- 小林 克 1997「伊勢堂岱遺跡について」『縄文時代の集落と環状列石』日本考古学協会
- 小林 克 2007「環状列石(東北・北海道地方)」『縄文時代の考古学11 心と信仰』同成社
- 佐々木藤雄 2002「環状列石と縄文階層社会」『縄文社会論(下)』同成社
- 佐野一絵 2005 「伊勢堂岱遺跡」『縄文ランドスケープ』アム・プロモーション
- 佐原 真 2005『戦争の考古学 佐原真の仕事4』岩波書店
- 佐原 真・小林達雄 2001『世界史のなかの縄文』新書館
- 鷹巣町教委 1999『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(1)』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第4集
- 鷹巣町教委 2000『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(2)』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第5集
- 鷹巣町教委 2001『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(3)』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第6集
- 鷹巣町教委 2002『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(4)』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第7集
- 鷹巣町教委 2002『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅰ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第8集
- 鷹巣町教委 2003『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅱ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第9集
- 鷹巣町教委 2004『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅲ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第10集
- 鷹巣町教委 2004『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅳ』鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第12集
- 高橋忠彦 1993「米代川流域の三脚石器」『よねしろ考古』8 よねしろ考古学研究会
- 谷口康浩 2008「総論：コードとしての祭祀・儀礼」『考古学ジャーナル』578 ニューサイエンス社
- 富樫泰時 1974「円筒土器文化圏が意味するもの」『北奥古代文化』6 北奥古代文化研究会
- 文化庁 2010 『土偶』
- 宮尾 亨 1999「自然の中に取り込んだ人工空間としての記念物」『最新 縄文学の世界』朝日新聞社
- 宮尾 亨 2007「環状列石の造営」『縄文時代の考古学11 心と信仰』同成社

写 真 图 版



写真 1 遺跡遠景（西→）



写真 2 板状土偶

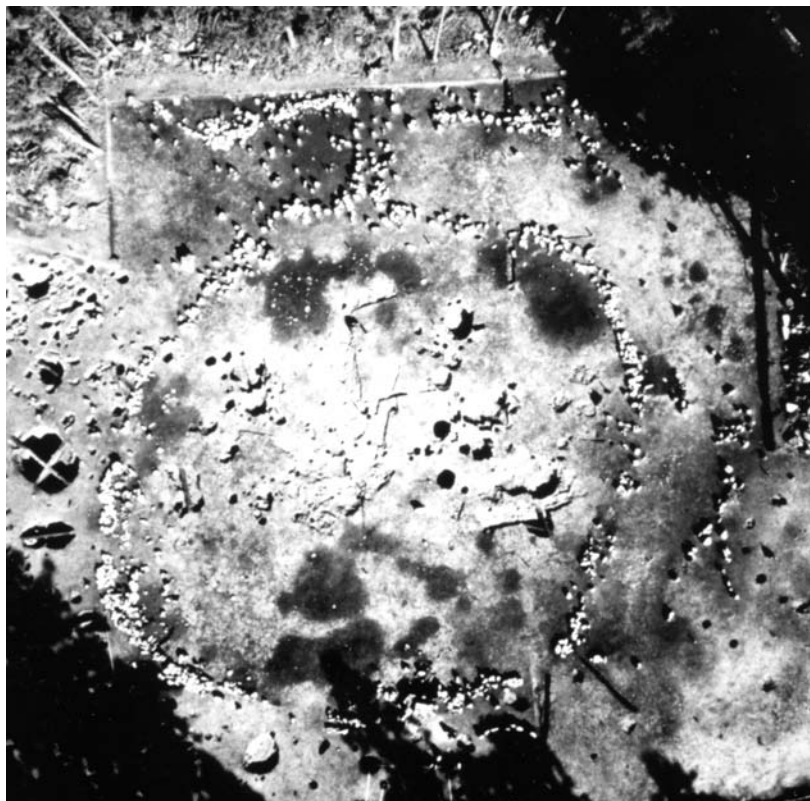


写真 3 環状列石 A



写真 4 環状列石 B

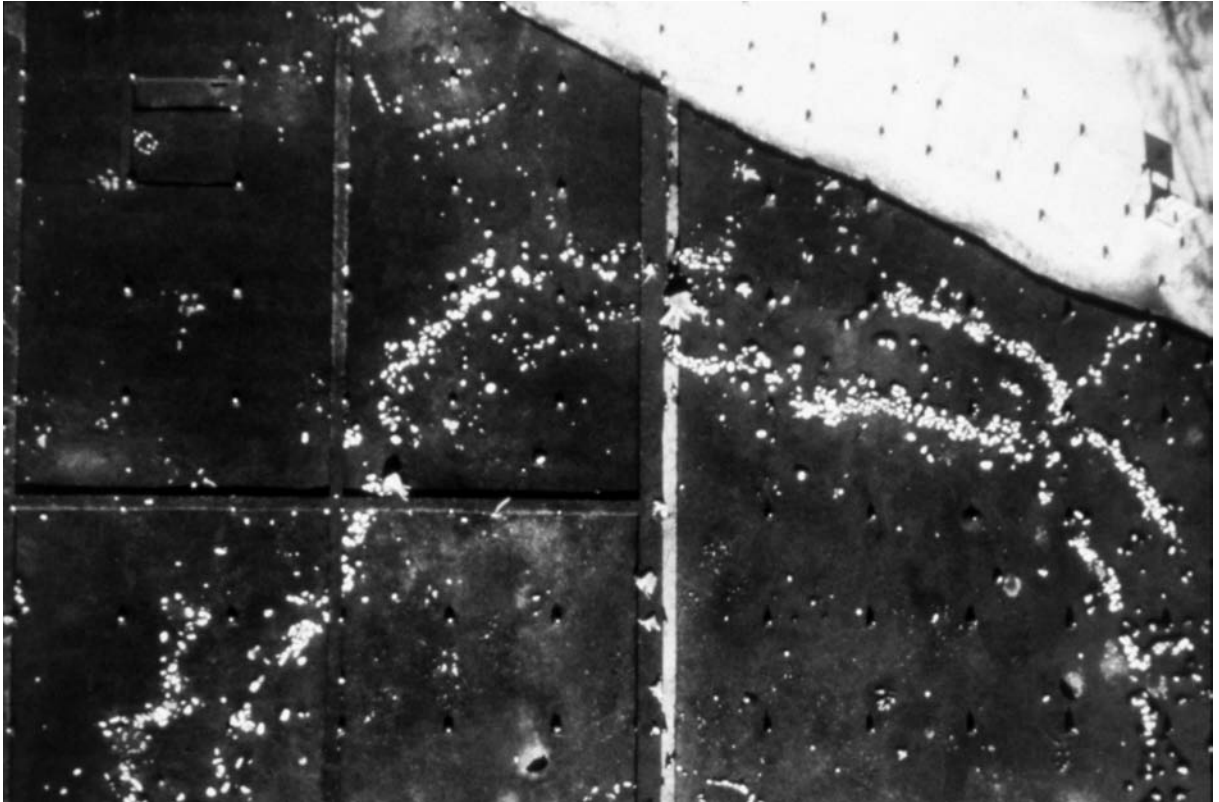


写真5 環状列石C



写真6 環状列石D

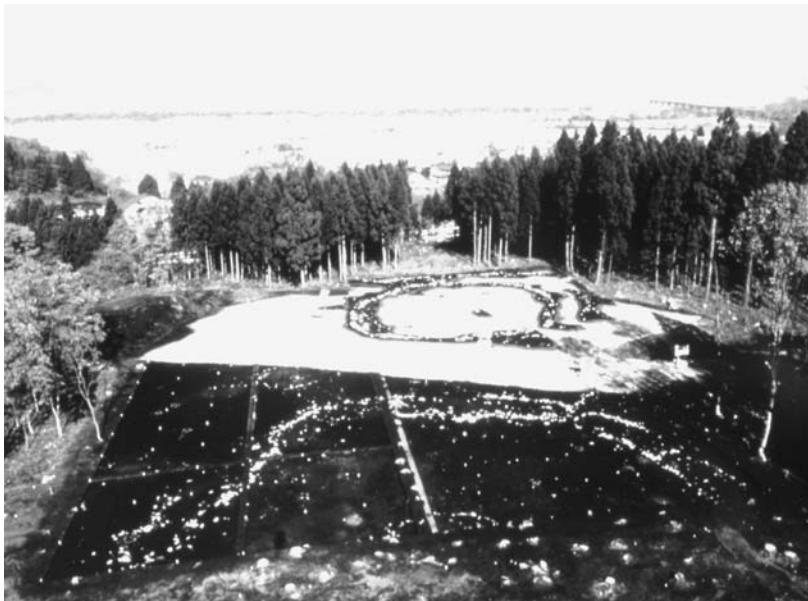


写真7 エリア①-1
遠景(南→)



写真8 エリア①-1
道路状遺構15SF588・589
(北→)



写真9 エリア①-1
ABトレンチ(西→)



写真10 エリア①-1
第16次(9)トレンチ(北西→)



写真11 エリア①-1
第16次(9)トレンチ(北東→)



写真12 エリア①-1
第16次(9)トレンチ(北→)



写真13 エリア①-1
環状列石B南部分(南→)



写真14 エリア①-1
環状列石C内帯(南西→)



写真15 エリア①-1
環状列石C外帯(南東→)



写真16 エリア①-1
環状列石Cブロック10(南→)



写真17 エリア①-1
環状列石Cブロック29(北東→)



写真18 エリア①-1
環状列石Cブロック35(北→)



写真19 エリア①-1
環状列石Cブロック36(北→)



写真20 エリア①-1
環状列石C外帯(南西→)



写真21 エリア①-1
環状列石C盛土層(北→)



写真22 エリア①-1
環状列石C南部分
ハンドボーリング(南東→)



写真23 エリア①-1
環状列石C
埋設土器5 SR01(北→)



写真24 エリア①-1
環状列石C
埋設土器5 SR02(北→)



写真25 エリア①- 1
環状列石 C
埋設土器 5 SR03(北→)



写真26 エリア①- 1
環状列石 C
埋設土器 5 SR03(北→)



写真27 エリア①- 1
環状列石 C 三脚石器出土状況